へ13
2483
8

一種彦作　癸未新板後

音羽たゝのあらまし編

丹七女郎花喩栗嶋

國貞画

永寿堂

上梓

遠13 特
2483
8

音羽たゝの丹七女郎花喩栗嶋　全六冊

女郎花たとへぐあの内侍哉と新続筑波の李吟ゞ
人を外題ふちゝろと雁の来る空をちぐ〳〵急作ハむろ
其名を示し〳〵る兵具屋音羽の瀧の糸三筋ゝ合て歌ゝなる
加田栗嶋の丹七が離のもとゝ文のはてゝかゝるの神風
振袖を留て女郎の針供養浮世代衣の花形ゝ拾徒の
蝶千鳥彼建久の五月雨世話ゝやゝ〳〵結び
忠孝義理の柵ゝ風のかけゝる村紅葉錦ゝ立ゝ美しき
巻物神楽の太鼓と芸事拍子ゝ隨く記

文政壬午九月稿成
癸未正月裝市

柳亭種彦

難波瓢簞町
兵具屋
の
遊女
音
羽

京都
烏丸の
米
商人
丹波屋
七郎兵衛
人呼ぐ
丹七とゝ

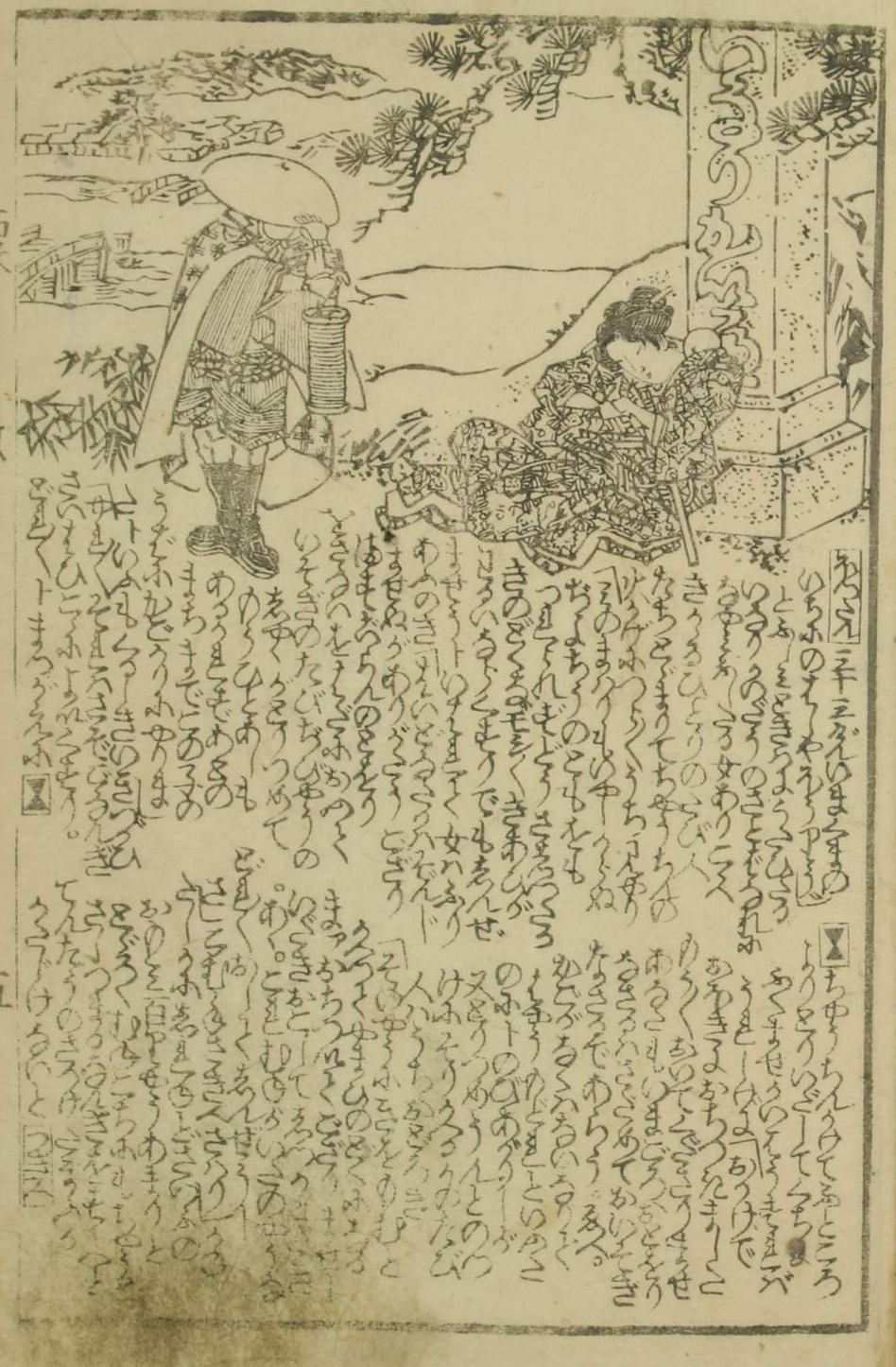
丹波屋の手代 藤八

丹波屋の把針 於時
梶本屋 景二郎

丹波屋の娘
錦小路の
絹坊村
高人
紅葉屋
秋右衛門が
娘

男達
御所の
五郎藏
丹波屋の
番頭
欲藏

説経
浄瑠璃
かるかや
行状記
佐渡七太夫
大人
俳諧の點者
奈加川
喜雲



本文のあらまし

波

村

○ことのあるときつぎホゆり

下が

そんなるぐうのよ
ろずやくもたんだやみ
ろんだらーてあいがちまこと
とのろのアかどびをくふさとう
ちろをるぐんたきださまとこと
うちいのくねたのかるそうぐ

つき

ぢくらわうれるどんでうそうてん
そまぢやふうろくきろうのやんぐる
とびそくはのうでれるふたのでまき
ぢろうさうのやきろろくさうろくと
そろるくろぐうもおうまねとそのさう
どんれるさくきくーいろれるとのふく
ゆきまぐれーちやとのふく
男のことわそひれもろちふたう
いきさろうづくでんひうまぬきりふ
うくまるもさとのろくひさとこが
えんちあうりたけのれあげ
ゆうぐそでどびもろろくべ
るぜるろにれも
こぐきせのと
いくれてへ
ぐさんせぬ
のやきるる
てさうくぐの
るとぐくも
ゆちううと
くくびうての
ようちえろ
とちの人の
ろるをべ
とのふたのろひ
二百ろんれやや
二百ろれのつるとて
ちぢうのさとうまぐる

てんけをちうろうぐたうぎのちぐさま
男のとうけるとんれきもわまれも
せねしうぐえが女ぐうおやとぐさえ
ゆもおまくうぐさうのうくくぐきイせ
たうくゆくをひきとぐめ一ゆまくそれで
めんどくうるどものときうくさろ
れうーくさ
きまるう
でんゆろと
ちちのちのくぐえ
ぢろたう
ちのうろきる
ろうをくく
ちろんぐでうひうろ

上へ

ちうんをうろうきづうひ
うのろのぐまのん
ちうのくぐえ
ぢくぢぐうのんべ

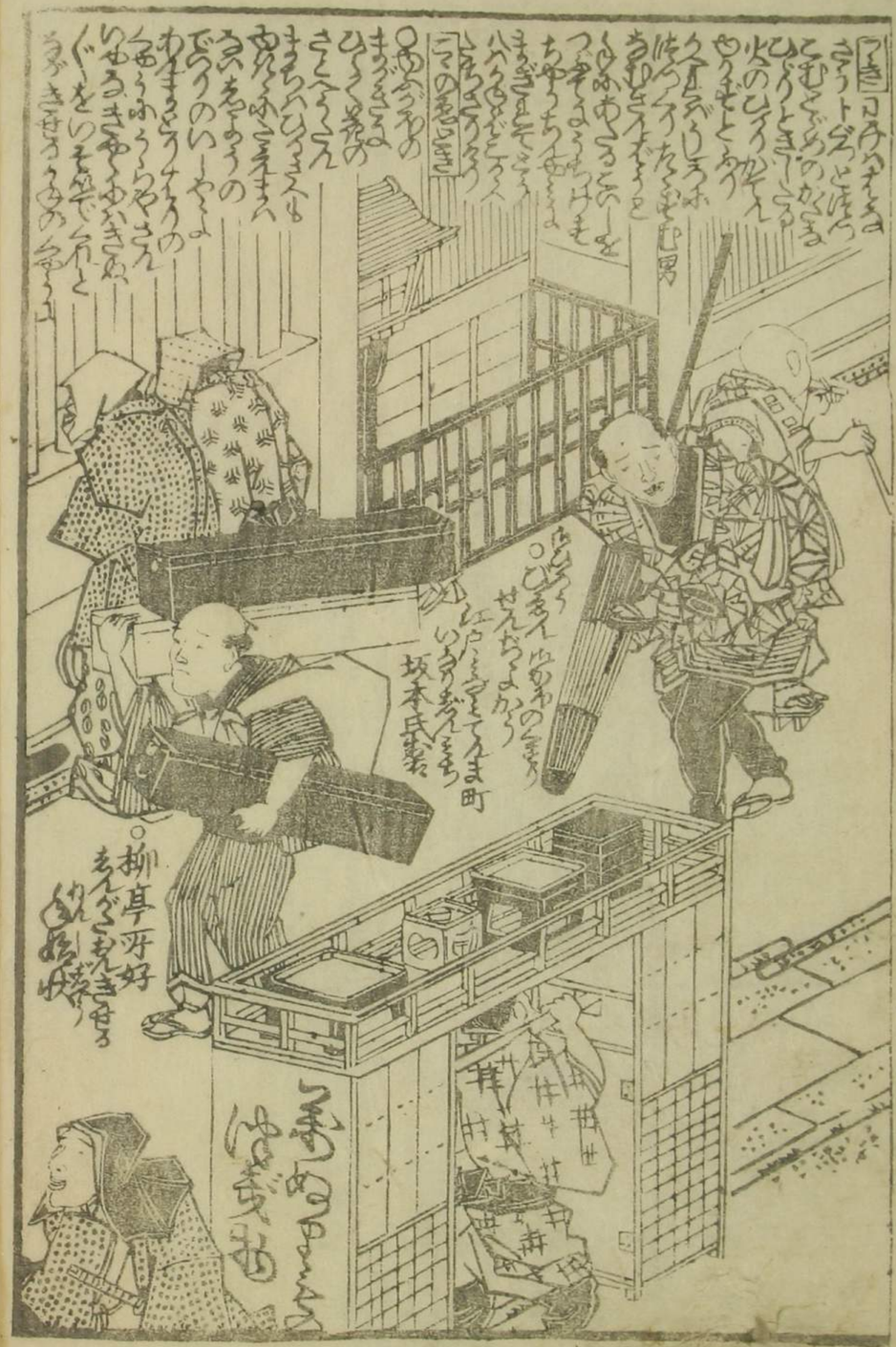
ちちのうのきまで
たうるまのちちあんの
ろうおとちぐうん
さぐうちゆうり

ひうえる
ぐでうう
うとちゆが
ぐまうとさう
ぐえーくありゆうい
きをひんなきとさうくス
ちうろくぬそくまぐうぎるうぜ
くうんーゆうかさまぐさアかさき
きてうのやまとのうひうろうのんぐそんく
義八が母ぐゆうくるどまくちまてん
ひとうのまうトうちうろうんぐうあ

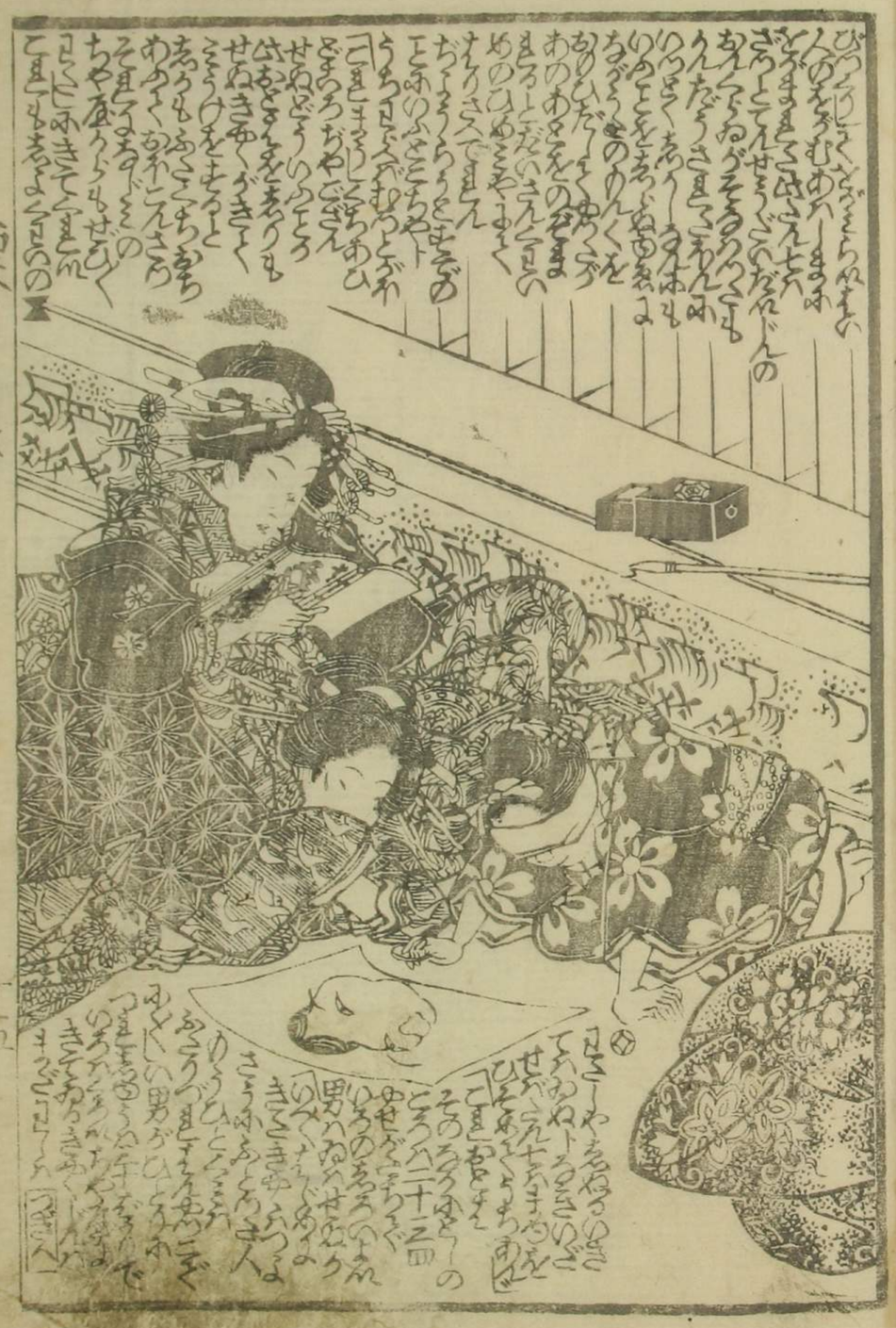
ホまでホ
くまホのろう

○ぢりきのうちゆいはの二ろ
一さうくゆんりうくあうくゆまうんく
こまうろう泡ゆせうとたうでるゆきうう

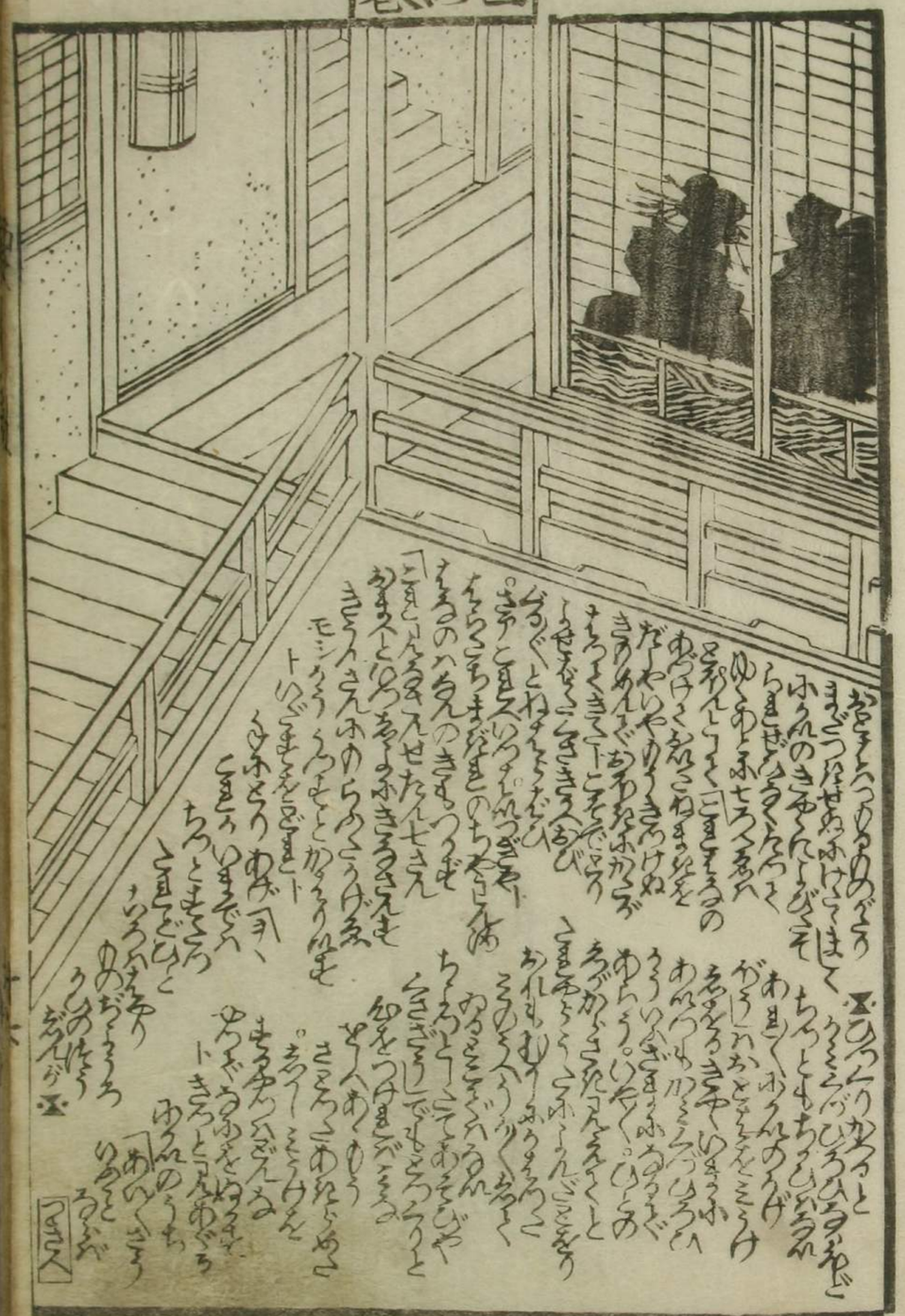
つき


○ひきうす
○柳亭呼好
坂本長蔵

七
村田小三郎

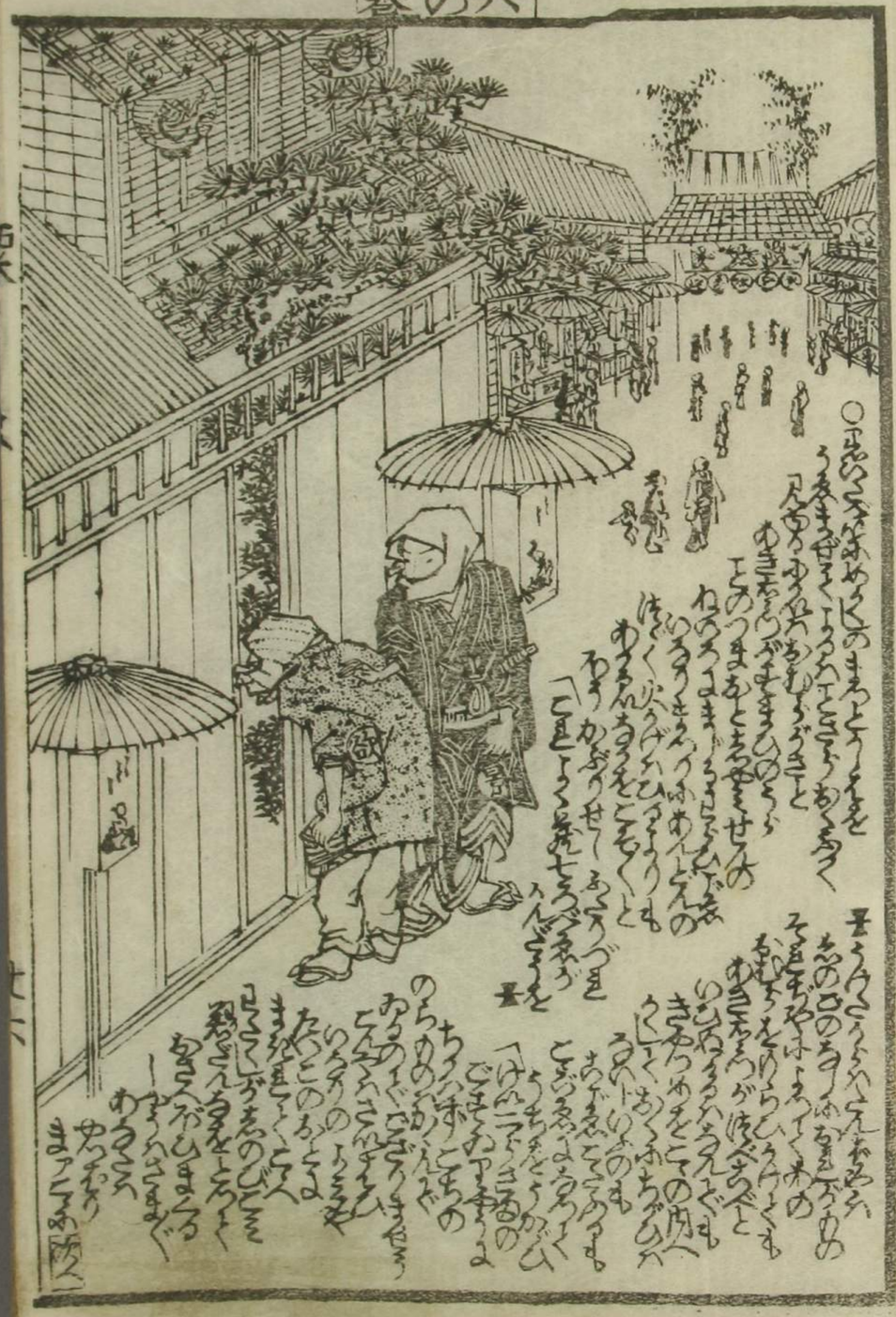


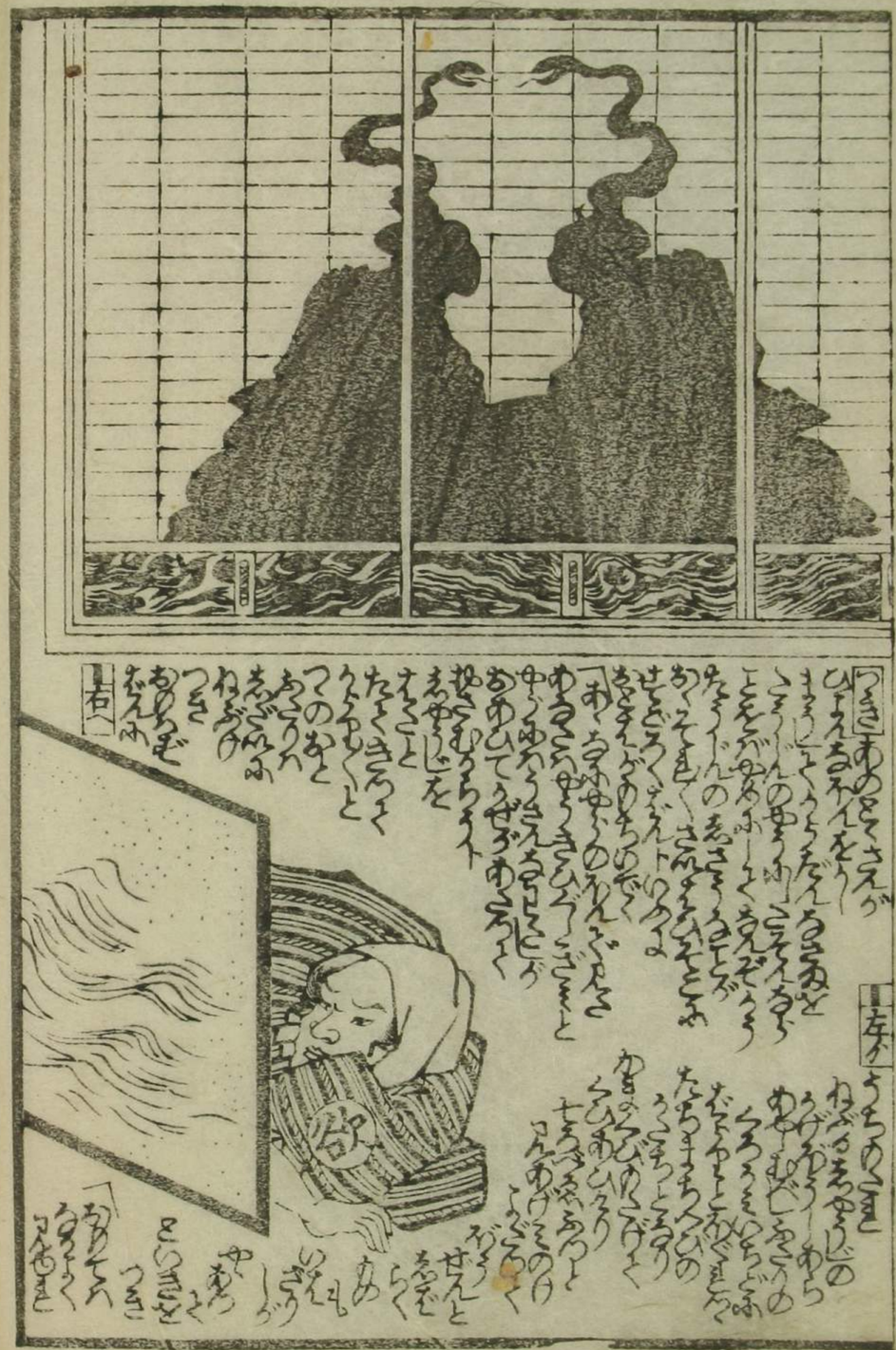
四の巻



五渡亭
國貞画
千種万家
福万の千の秋

時





傭筆千形仲道

ひやうぐやおとしの朝顔
たんばのやちよ　松枝
浅茅ヶ原　たつ
種彦作　國貞画
前編